



高崎 健太郎さん

Takasaki Kentaro

〔八丁区〕

たかさき・けんたろう / プロ
野球・横浜DeNAベイス
ターズ所属の投手。入団6年
目で、通算成績は12勝19敗1
セーブ5ホールド、背番号22。

チームの柱として勝利のため に頼られる投手を目指したい

「チームが勝つために、柱として1年間ローテーションを守ることが目標。昨シーズンの成績の勝敗が逆になるように、がんばりたい」と語るのは、プロ野球・横浜DeNAベイスターズに所属する高崎健太郎投手。

昨季は29試合に登板し、自己最多の5勝をマーク。今季から中畑清監督の新体制となった同球団で、先発投手の中心としての大活躍を、首脳陣およびファンから強く期待されている。野球を始めたきっかけを「父

が少年野球の監督で、兄や姉もやっていたから」と振り返る高崎投手。白旗小で野球を始め、甲佐中、鎮西高と進んで鍛えられ、社会人野球の日産自動車に入って活躍。平成19年に横浜に入団し、チームの勝利のためにフル回転でマウンドに上がる。「うまくなりたい」という一心で、毎日の厳しい練習に取り組んだ少年時代。「とにかく全試合に出たかったので、誰にも

負けたくないという強い気持ちを持って練習に臨んだ」と語る高崎投手。「高校時代に投手を任されて、球速140km/hが出せるようになってから、プロを意識。目標を高く持って練習を重ね、選ばれた者のみが立つ晴れの舞台への扉を力強く開いた。「やってやる」と飛び込んだプロの厳しい世界。「試合で納得のいくピッチングができなかったときは、夜中まで考えこむ」こともあるが、次の戦いに向けて「気持ちの切り替えが大事」と自らを奮い立たせる。

シーズンオフで帰省した際には、少年野球教室や講演などを開催して、自分の経験を地元の子どもたちに伝えることで故郷への貢献を図る高崎投手。本町の子どもたちの健やかな成長のために、昨季は1勝につき1万円を児童図書を購入費用として町に寄付する活動にも取り組んだ。今季も同じ活動を続け、チームの浮上の鍵を握る存在として、また、応援してくれる故郷の子どもたちのためにも、「チームの柱として頼られるピッチャー」を目指し、さらなる勝利を積み上げる飛躍を誓う。